

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第135回

(2021年10～12月期)

令和4年2月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 2021年12月1日
3. 調査期間 2021年10～12月期
4. 調査対象企業数 380企業（うち回答企業数159企業）
5. 調査対象業種
- ①建設業（回答企業数30企業）
建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他
- ②商業・サービス業（回答企業数72企業）
卸売業、小売業、飲食業、サービス業
- ③製造業
- 機械金属関連業（回答企業数31企業）
鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他
- 繊維工業（回答企業数26企業）
撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-20**。前期（-26）比は+6ポイントとなった。また前年同期（-49）比では+29ポイントとなった。

業種別では、**建設業-27**（前期比-5、前年同期比-14）、**商業・サービス業-35**（前期比+20、前年同期比+30）、**機械金属製造業+37**（前期比-23、前年同期比+73）、**繊維製造業-12**（前期比+9、前年同期比+40）となっている。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-28**。前期（-25）比は-3ポイント、前年同期（-49）では+21ポイントとなった。

業種別では、**建設業-40**（前期比-1、前年同期比-29）、**商業・サービス業-40**（前期比+9、前年同期比+20）、**機械金属製造業+7**（前期比-33、前年同期比+50）、**繊維製造業-23**（前期比-2、前年同期比+39）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-17**。前期（-23）比では+6ポイント、前年同期（-45）比では+28ポイントとなった。

業種別では**建設業-36ポイント**（前期比-13、前年同期比-17）、**商業・サービス業-14ポイント**（前期比+25、前年同期比+42）、**機械金属製造業±0ポイント**（前期比-32、前年同期比+26）、**繊維製造業-24ポイント**（前期比+8、前年同期比+39）となっている。

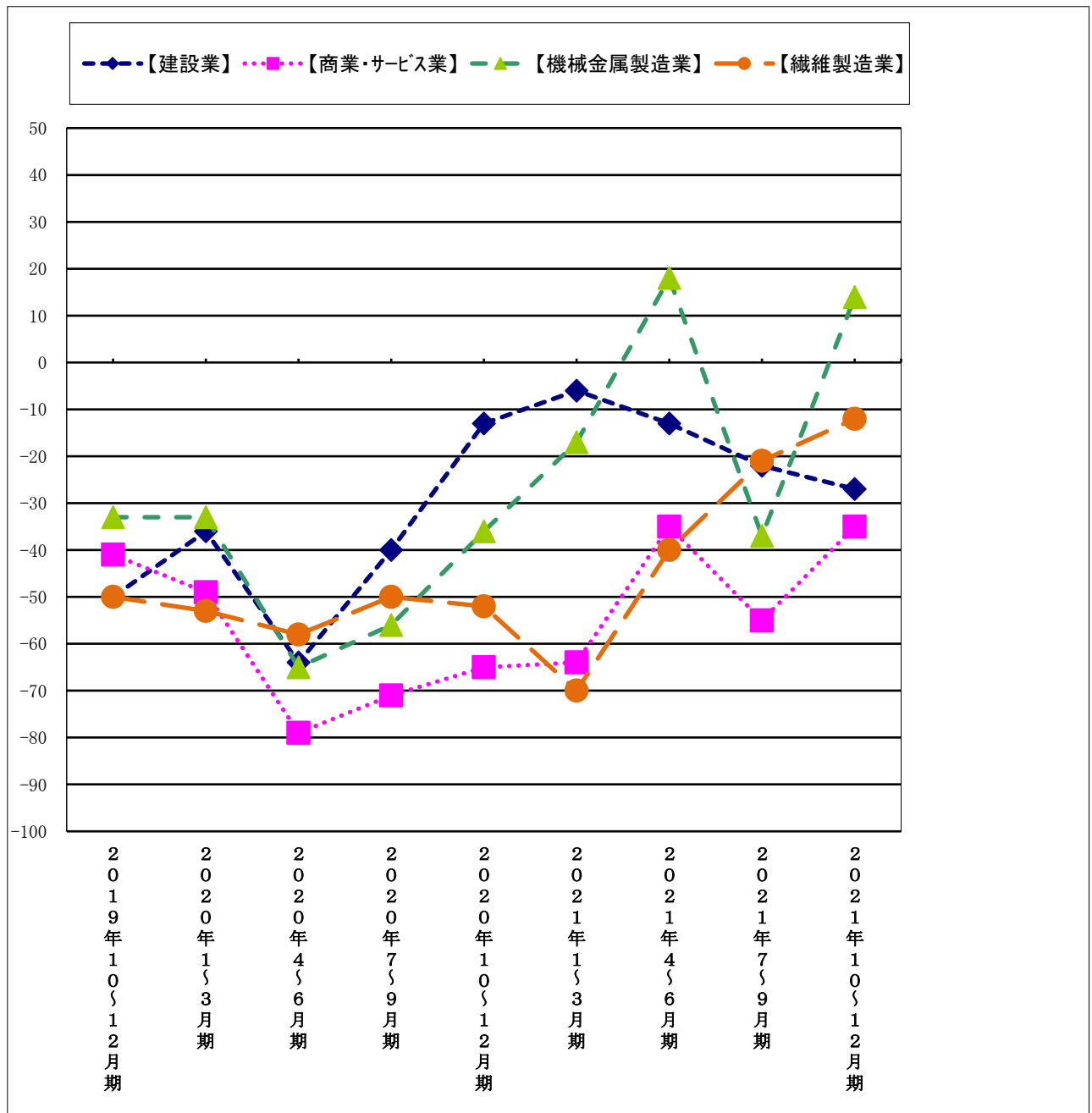
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（23.8%）「民間需要の停滞」（17.5%）、**商業・サービス業**では「需要の停滞」（17.1%）「消費者ニーズの変化への対応」（14.4%）、**機械金属製造業**では「原材料価格の上昇」（21.3%）「製品単価の低下・上昇難」（12.5%）、**繊維製造業**では「需要の停滞」（25.4%）「原材料価格の上昇」（16.9%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2019年10～12月期	-50	-41	-33	-50
2020年1～3月期	-36	-49	-33	-53
2020年4～6月期	-64	-79	-65	-58
2020年7～9月期	-40	-71	-56	-50
2020年10～12月期	-13	-65	-36	-52
2021年1～3月期	-6	-64	-17	-70
2021年4～6月期	-13	-35	18	-40
2021年7～9月期	-22	-55	-37	-21
2021年10～12月期	-27	-35	14	-12

[2019年10～12月期] から [2021年10～12月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-27**。前期比は-5、前年同期比では-14ポイントとなった。
業種別では**建築・大工業 [-33]、土木業 [+33]、管工事業[±0]、鉄骨・鉄筋業 [±0]、電気工事業[-57]、その他 [-20]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-36**。前期比-13、前年同期比では-17ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-35**。前期比は+20、前年同期比では+30ポイントとなった。
業種別では、**卸売業 [-17]、小売業 [-54]、飲食業 [+9]、サービス業では [-38]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-14**。前期比+25、前年同期比では+42ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは+37**。前期比では-23、前年同期比では+73ポイントとなった。
業種別では、**鉄鋼業 [+33]、非鉄金属業 [-100]、金属製品業 [+14]、一般機械器具業 [±0]、電気機械器具業 [±0]、輸送用機械器具業 [±0]、精密機械器具業 [+100]、プラスチック製造業 [+17]、その他 [+50]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは±0**。前期比-32、前年同期比+26ポイントとなっている。

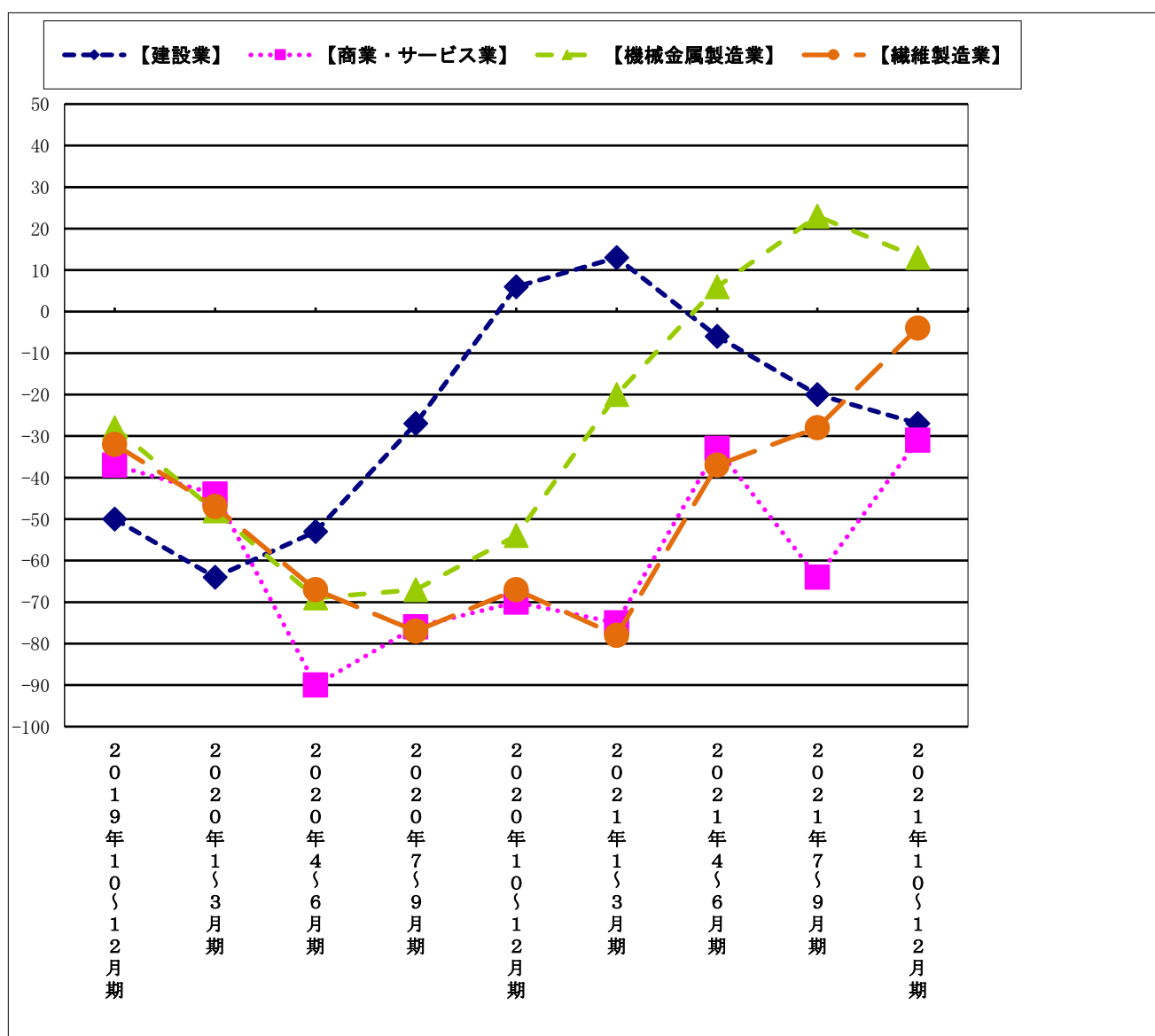
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-12**。前期比では+9、前年同期比では+40ポイントとなった。
業種別では、**織物業 [-18]、染色整理業 [-50]、ニット・メリヤス業 [-100]、レース業 [±0]、縫製業 [±0]、刺繍業 [+20]**ポイントとなった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-24**。前期比+8、前年同期比では+39ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

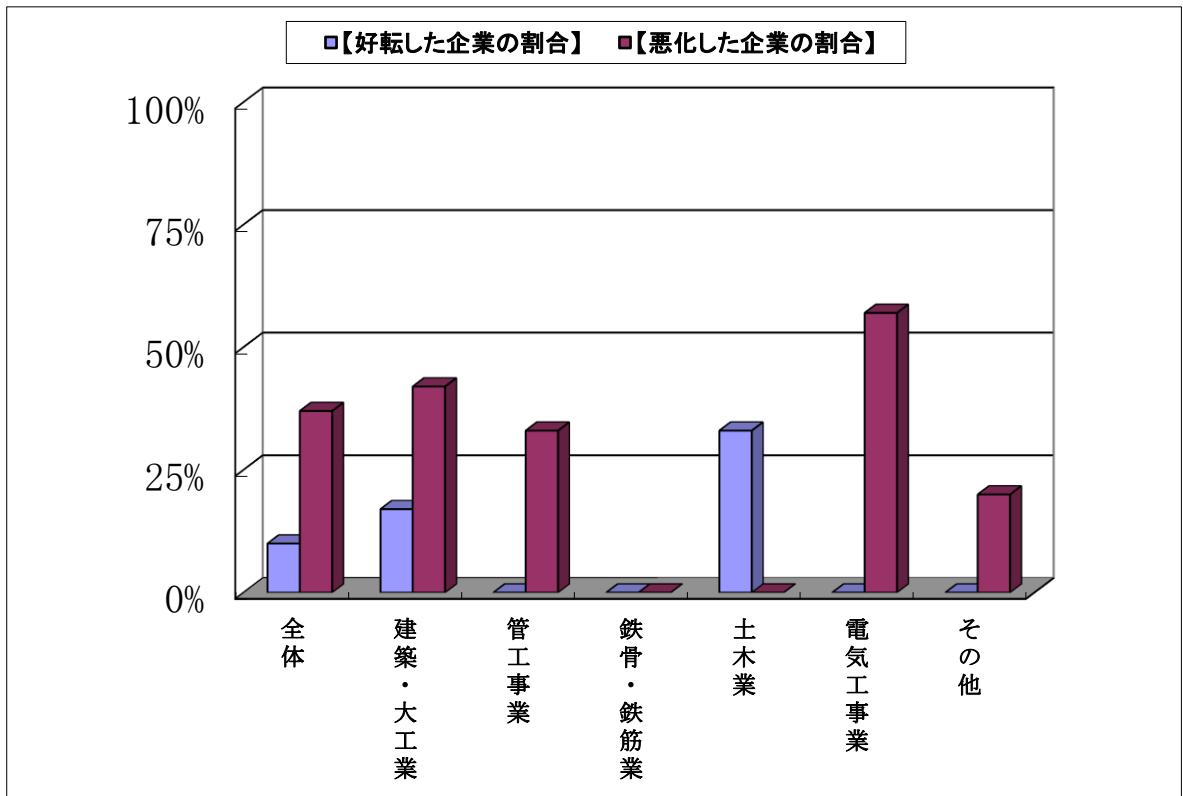
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2019年10～12月期	-50	-37	-28	-32
2020年1～3月期	-64	-44	-48	-47
2020年4～6月期	-53	-90	-69	-67
2020年7～9月期	-27	-76	-67	-77
2020年10～12月期	6	-70	-54	-67
2021年1～3月期	13	-75	-20	-78
2021年4～6月期	-6	-33	6	-37
2021年7～9月期	-20	-64	23	-28
2021年10～12月期	-27	-31	13	-4

[2019年10～12月期] から [2021年10～12月期]

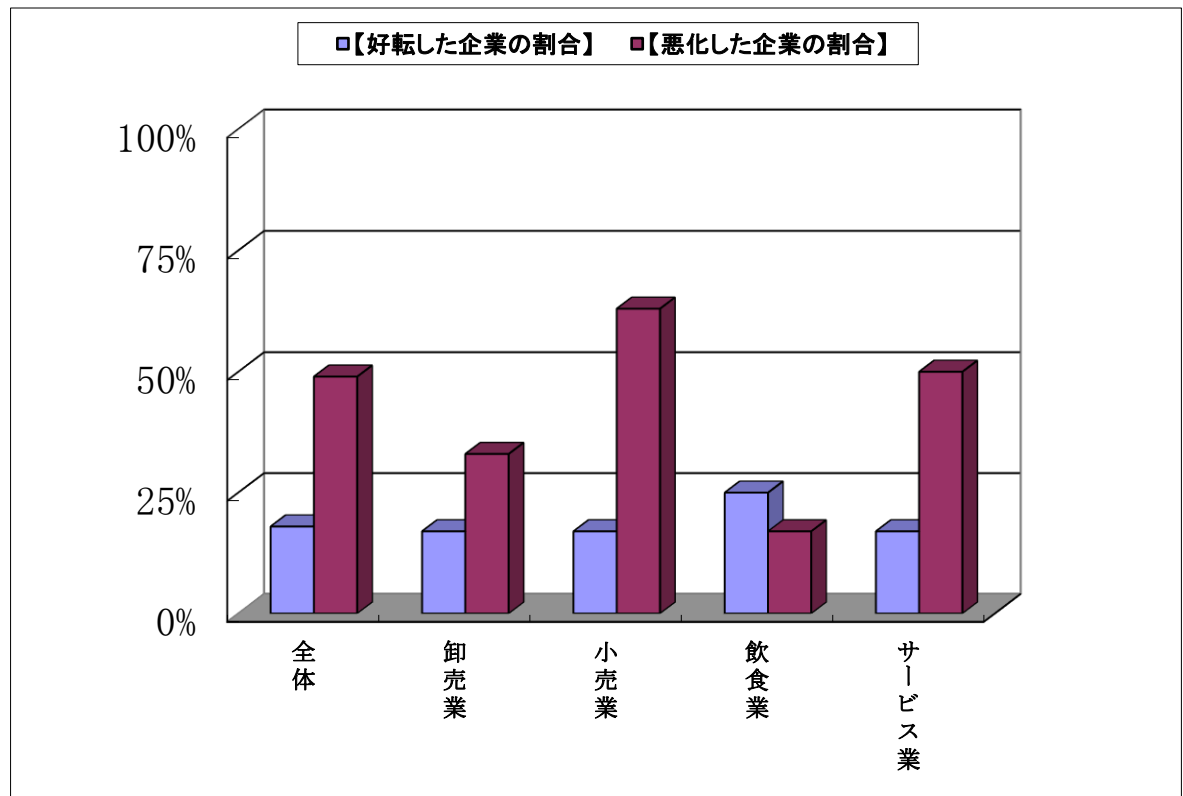


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

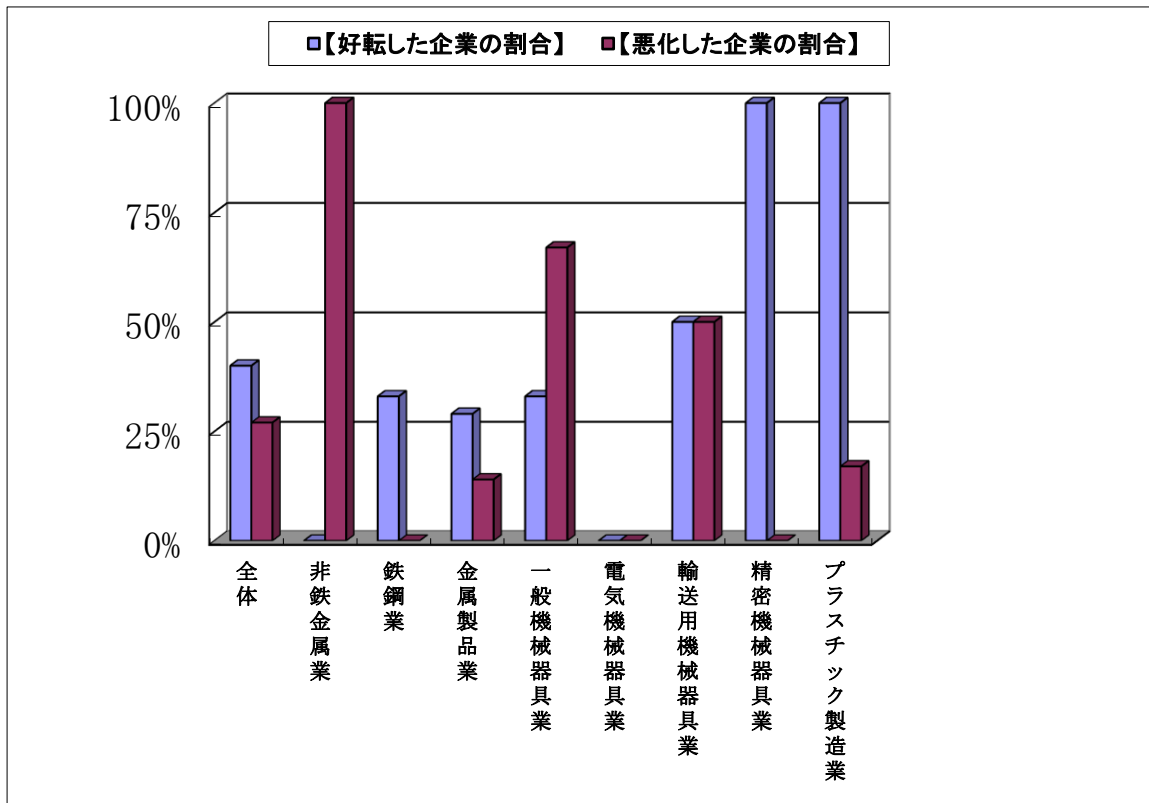
【建設業】



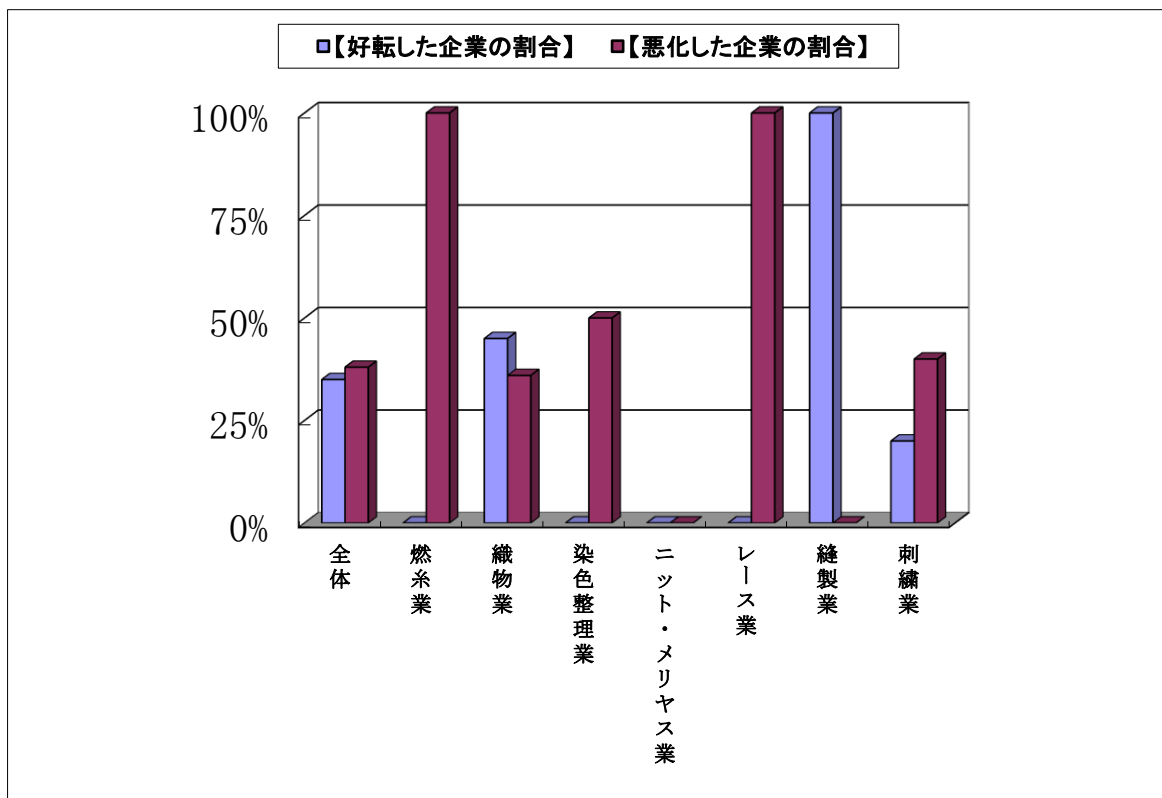
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



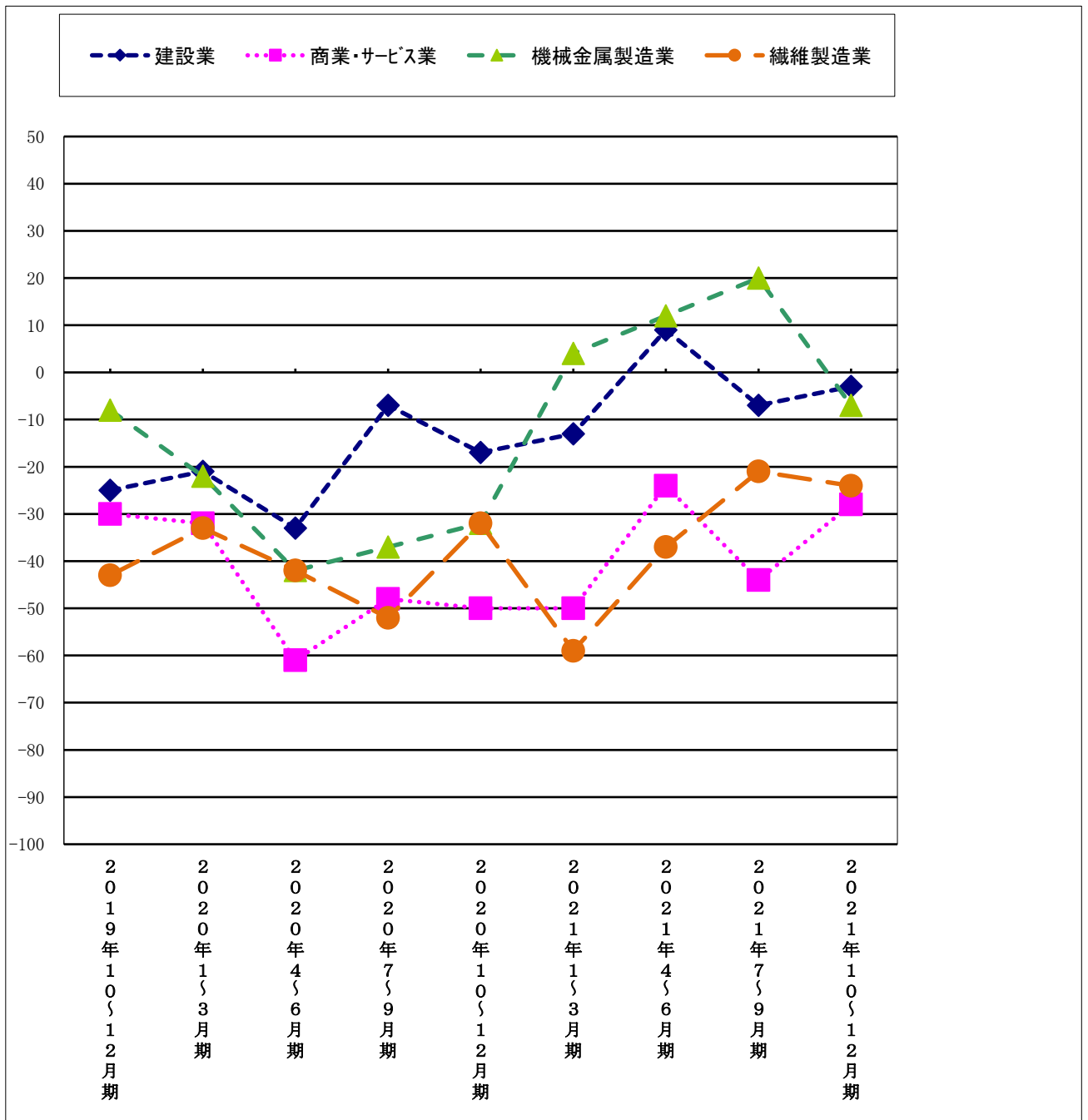
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
2019年10～12月期	-25	-30	-8	-43
2020年1～3月期	-21	-32	-22	-33
2020年4～6月期	-33	-61	-42	-42
2020年7～9月期	-7	-48	-37	-52
2020年10～12月期	-17	-50	-32	-32
2021年1～3月期	-13	-50	4	-59
2021年4～6月期	9	-24	12	-37
2021年7～9月期	-7	-44	20	-21
2021年10～12月期	-3	-28	-7	-24

[2019年10～12月期] から [2021年10～12月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	材料価格の上昇 23.8	民間需要の停滞 17.5	材料の入手難 13.8	熟練技術者の確保難 8.8	従業員の確保難 7.5
前期	1位 23.9	2位 18.3	5位 7.0	3位 8.5	7位 4.2
前年同期	5位 8.0	2位 20.0	7位 4.0	1位 24.0	3位 12.0
商業・サービス業	需要の停滞 17.1	消費者ニーズの変化への対応 14.4	材料等仕入単価の上昇 11.2	従業員の確保難 8.0	人件費の増加 7.5
前期	1位 17.9	2位 12.8	8位 5.1	3位 9.2	5位 7.7
前年同期	1位 22.9	2位 14.6	9位 4.2	3位 6.3	3位 6.3
機械金属製造業	原材料価格の上昇 21.3	製品単価の低下・上昇難 12.5	需要の停滞 11.3	従業員の確保難 11.3	生産設備の不足・老朽化 7.5
前期	1位 15.2	3位 11.4	2位 12.7	4位 10.1	4位 10.1
前年同期	11位 2.6	2位 11.8	1位 25.0	8位 5.3	3位 9.2
繊維工業製造業	需要の停滞 25.4	原材料価格の上昇 16.0	製品ニーズの変化への対応 12.7	製品単価の低下・上昇難 11.3	生産設備の不足・老朽化 8.5
前期	1位 30.7	2位 16.0	4位 8.0	3位 12.0	5位 6.7
前年同期	1位 29.3	4位 8.6	2位 15.5	3位 10.3	4位 8.6

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- ・材料高騰が続いているが、工事価格は価格競争が厳しく低くなる一方。予算も厳しく薄利多売にするには物件数が少ないし、薄利多売で業務を詰め込めば従業員は仕事量と給料が見合わないと辞めていく悪循環。
- ・全体的に官民ともに工事量が停滞しているが、人件費は下請者共に増加傾向である。
- ・販売単価の減少。
- ・引き合い増加傾向にあるものの仕入価格上昇、人手不足がマイナス要因となっている。
- ・原材料の値上がりがどこまで進行するか不安。在庫不足。

〔商業・サービス業〕

- ・経費上昇に対する価格転嫁が追い付いていかない。
- ・オミクロン株の出現で厳しい状況が続くものと思われる。
- ・従業員の高齢化、従業員採用・育成が課題。
- ・お客様及び店主の老朽化。
- ・前半はコロナ渦における自粛等が続き売上が伸び悩んだ。後半は規制も緩和されたので感染症対策は引き続き実行注視し、営業を展開し売上増加に努めたい。
- ・設備等の老朽化に伴う修繕費が増加。
- ・長引くコロナの影響によるディナータイムの客足動向。食材調達、仕入単価上昇がどこまで悪化するか。最低賃金の引上げが今後どの程度上昇するか。
- ・コロナが落ち着きようやくお客様が戻りつつある。宴会などはコロナ前まで戻るには時間がかかる。早急な事業転換が必要。
- ・新規顧客取り込みが必要。
- ・ウィズコロナで現状を考え、販売形態の変化が見られる。DX検討。

〔機械金属関連業〕

- ・東南アジアのコロナによる部品の減産でオーダー部品が入荷せず各自動車業界もラインの停止、生産の減産に追い込まれている。新車を生産すれば売れるが残念。中古車は30%増となっている。半導体等の遅れで減産が1か月約30%で、東南アジアのコロナで部品遅れあり。
- ・コロナにより海外生産の材料部品が滞り受注の停滞。

〔繊維工業〕

- ・売上増加は見込まれるがその額はコロナ前に戻るにはまだまだである。
- ・販路拡大必要。